

12課

12月19日

安息日

——神のご品性を体験し、生きる



安息日午後 12月12日

暗唱聖句

そして更に言われた。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある。」(マルコ 2: 27、28、新共同訳)

また彼らに言われた、「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。それだから、人の子は、安息日にもまた主なのである。」(マルコ 2: 27、28、口語訳)

今週の聖句

創世記 1、2章、出エジプト記 16: 14~29、イザヤ 58: 1~14、マタイ 12: 1~13、ルカ 13: 10~17

今週のテーマ

ジョディーは、彼女が取っている大学院のコースの中で唯一のセブンスデー・アドベンチストでした。安息日に開催される社交行事には参加しないので、彼女の信仰がみんなにはっきり知られるようになりました。

ある日、友人の1人であるゲイルが、ジョディーに電話をしてきました。ゲイルのご主人が6週間ほど町を離れるので、もしよかったら金曜日の夜をこれから6回一緒に過ごさないかと、尋ねてきたのです。ゲイルは、ジョディーには金曜日の夜にすることが「何もない」と知っていたからです。

それから4回、金曜日の夜に2人は一緒に食事をし、音楽を演奏し、クリスチャンとしての体験を分かち合い、一緒にいることを互いにおおむね楽しみました。5週目の週末、ゲイルはジョディーに言いました。「街中で買い物をしていたときに時計を見て、わたし思ったのよ。ああ、うれしい。安息日がすぐに来るわって……」。ゲイルは、それまでの4回の金曜日の夜に、クリスチャンとして何か新しい体験をしたことに、ふと気づいたのです。彼女は成長し、自分の神についてさらに学び、信仰を深めていたのです。安息日は、教育と個人的成長の機会になっていたのです。

これは、安息日を単なる1日とか、休息の日として捉えるだけでなく、教育の手段としても捉えることができるという興味深い物語です。

あなたはこれまでに、どうして神は創世記の最初の2章の中に、内容が調和した二つの天地創造の物語を収めることになさったのだろうか、と不思議に思ったことはありませんか。創世記1章は、創造週と深まりゆく（まず地球の形が作られ、次に命が与えられ、6日目の人間の創造で頂点を迎えるという）地球の不思議について詳しく語っています。創世記2章は、別の視点から、つまり6日目に特に焦点を合わせて同じ話を見えています。今やアダムがその場面の中心であり、すべてのものは（園、川、動物、言うまでもなく、女も）彼のためにそこにあると説明されているのです。

天地創造は、たった一つの物語で説明するには深すぎます。まず私たちは、完璧な審美眼を持っておられる芸術的で力強い創造主について学び、次に、関係の神に出合います。この神は、人間がほかの人間やほかの被造物を愛し、思いやることを望んでおられる方です。

問1 創世記1章と2章を読んでから、最初の安息日（創2:1~3）がどのように最初の創造物語や二番目の創造物語と関連しているか、じっくり考えてください。その結論は、神が安息日を祝福し、それを聖とされたことの意味を理解するうえで、いかにあなたの助けとなりますか。

あなた自身が、最初の安息日を迎えたアダムかエバであると想像してみてください。それは、あなたが生きて迎える最初の日、伴侶と過ごす最初の日、神と過ごす最初の日です。なんという教育の日でしょう！ あなたは、このような美を創造することのおできになった神について学び始めます。あなたは、象を見ては驚き、次にカエルを見ては驚きます。いずれも独特です。あなたは、キリンやバッファローのこっけいなしぐさを見て微笑みます。また、多くの色や形に畏怖の念を抱き、多彩な音の調和にうっとりして黙り込みます。あなたは、味や匂いの広がりを楽しみ、さまざまな触感を探ることに喜びを感じるのです。とりわけ、あなたは関係について、つまり責任、思いやり、愛といったことについて学び始めます。あなたはそれを創造主と共に体験し、自分以外の被造物を相手に練習し始めます。

最初の安息日は、アダムとエバにとって受け身の体験ばかりではなかったはずで、それは、彼らが創造主と被造物に注目するために、神が生み出された機会でした。それは、2人が驚くための時でした。

モーセがイスラエルの人々をエジプトから導き出すように求められたとき、この集団が神の子らとしての感覚を失っていたことは明らかです。彼らは、彼らに礼拝することを求め、すばらしい未来をいろいろ約束しておられる神がどのような方なのか、再発見する必要がありました。安息日は、彼らの再発見の旅における極めて重要な学習体験でした。安息日はまた、彼らと神との特別な関係をほかの国々にはっきり示すメッセージにもなったのです。マナの体験は、イスラエルの人々を教育する神の方法をよくあらわしています。

問2 出エジプト記16:14~29には、イスラエルの人々が学ぶべきどのような教訓が記されていますか。

神は、イスラエルの人々のためにマナの奇跡を行い、毎日必要な分だけ食料をお与えになりました。もし神がそれ以上の量をお与えになったなら、だれがそれを与えてくださっているのかを、忘れたかもしれません。そこで神は人々のために毎日奇跡を起こされ、彼らは神の配慮を目にしたのです。しかし安息日は、その日が特別な日となるべきであったように、状況が異なりました。いまや二つの奇跡が行われました——金曜日に二倍のマナが降り、それは一夜明けでも腐らなかったのです。それにより安息日は、イスラエルの人々が彼らの解放者であられる神に驚嘆し、神の民であるとはどういうことかを再発見する日となりました。

イスラエルの人々は、40年にわたってこのマナを食べました（出16:35）。神はまたモーセに、荒れ野で神がどのように彼らを養われたのかを思い起こさせるため、1オメルのマナを蓄えるように指示されました（同16:32、33）。それは安息日の特別な経験を思い出させるものにもなったことでしょう。安息日が特別であることを神がイスラエルの人々に表明された機会は、ほかにもありました。

安息日は、イスラエルの人々が神の聖なる選ばれた民であることと彼らの神を再発見できるよう、神が手助けされた方法でした。彼らは安息日を^{きよ}聖く守るよう求められましたが、それは、彼らの創造主のご品性と、永続する契約関係をより深く理解することとの関連においてでした。

安息日は「退屈だ」と思っている十代の若者とあなたが話をしているとしましょう。彼が有意義な学習の機会として安息日を（再）発見できるよう、あなたはどのような提案をしますか。

イスラエルの人々が味わった神との体験の浮き沈みは、安息日との彼らの関わり方と密接に関連していました。神は、彼らが安息日を順守しながらないことを、彼らの生活の中でご自分が軽視されているしるしと見なされました（エレ17：19～27）。安息日に対する新たな献身は、回復の一環——優先順位が正しくなったこととしるし——でもありました。イザヤ58章は、興味深い対比を描いています。

問3 イザヤ58：1～14を読んでください。神はご自分の民に、今日の私たちにも関連するどのようなことをここで言うておられますか。

イスラエルの人々は、(礼拝や断食によって)神に従う者のようなふりをしていましたが、礼拝後の彼らの生活の仕方は、彼らが正しく振る舞っているふりをしてにすぎないことを示していました。神の律法に対する心からの誠実な献身ではなかったのです。イザヤは58章において、神がご自分の民に期待しておられることを続けて明らかにしています。

話はここで終わりません。イザヤ58：13、14(口語訳)を読んでください。神はなぜ、この章の最後で安息日に焦点を合わせておられるのでしょうか。預言者イザヤは、ここで似通った言葉を用いています——「あなたの楽しみをなさず」「おのが道を行わず」「おのが楽しみを求めず」「むなしい言葉を語らない」と、彼は警告しています。言い換えれば、安息日は、決まりきったように礼拝をし、結局、自分の考え事をし、礼拝とは無関係な生活を送ってしまう時間ではないということです。安息日は、「喜びの日」「尊ぶべき日」であるべきです。この章の残りの部分を踏まえると、安息日は、神のご品性と目的を学ぶことを喜び、そのご品性や目的を他者との関係の中で生かすための日です。安息日を形式的に守り、礼拝を形式的に行うことを知っているだけでは、十分ではありません。学ぶことは生き方に影響しなければなりません。安息日は、優先順位を学び、それを実行するための時なのです。

あなたは安息日が好きですか。もしそうでないなら、それを变えるために何ができますか。あなたは安息日を「尊ぶ」ことを学びましたか。それはどういうことを意味するのか、安息日学校のクラスの仲間と話し合ってください。可能な限り、実際的な話をしましょう。

イエスは神の律法を大切にし、守っておられました（マタ5：17、18）。しかし彼はまた、律法の解釈について律法学者たちに異議を申し立てられました。その異議申し立ての中で、安息日順守に関して彼がなされた選択以上に、権力者たちを脅かすものはありませんでした。会堂は、安息日を教育の機会にすることを怠ってはいませんでした——トーラーが読まれ、必ず解釈されていたのです。律法学者もファリサイ派の人々も、律法の文面はよく知っていました。しかしイエスは、ご自分に従う者たちへの安息日の教育において、さらに踏み込まれたのです。

問4 マタイ12：1～13、ルカ13：10～17を読んでください。イエスは、これらの出来事を用いて当時の人たち（と現代の私たち）に、どのようなことを教えておられた（おられる）のですか。

イエスが安息日に「病人を」いやされたことを巡る論争は、罪の性質、安息日の理由、イエスと父なる神の関係、イエスの權威の性質に関する重要な靈的議論につながります。

安息日に対するイエスの態度は、今週の暗唱聖句によくまとめられています。「そして更に言われた。『安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある』」（マコ2：27、28）。イエスは、安息日が重荷になるべきでないことを強調したいと望まれました。安息日が「定められた」（創造された）のは、人間が、安息日を設けられた神のご品性を学び、神の被造物を大事にすることによって経験的に学ぶ特別な機会としてでした。

イエスは、ご自分の行動を通して疑問を投げかけることで、弟子、ユダヤ人指導者、そして群衆に、聖書と、彼らの信仰や神が意味することについて、もっと深く考えるよう迫られたのです。私たちのだれもが、（それ自身は悪いものではないかもしれない）規則や掟に容易にとらわれて、それらが目的のための手段ではなく、目的そのものになってしまいます。目的は、私たちがお仕えする神のご品性を知ることではなければなりません。そしてそれが、キリストの義の功績に対する私たちの信頼に基づく神への忠実な服従をもたらすのです。

あなたの安息日の守り方は、主にあって真に安らぎ、彼をさらによく知るための時ではなく、あれもこれもしてはいけない日に変えていませんか。もしそうであれば、神が意図しておられる安息日からもっと祝福を得られるよう、あなたはいかに変わることができますか。

イエスは、毎週会堂に出席することを実践し、弟子たちに手本を示されました。イエスが復活されたあとも、彼らはこの習慣を続けました。イエスに従うほかの者たちも同様でした。会堂は、使徒たちが主の復活に関する質問をするおもしろい場所の一つとなり、安息日は、その共同体が集まって学ぶ重要な機会を提供したのです。結局のところ、イエスはヘブライ人のメシア、旧約聖書に預言されたメシアであり、その旧約聖書は安息日ごとに会堂で朗読されました。信者たちがイエスを宣べ伝えるのに、とりわけユダヤ人や「神を畏れる人たち(方々)」(使徒13:26、16)にあかしをするとき、会堂以上に良い場所があったでしょうか。

問5 次の聖句を読んでください(使徒13:14~45、16:13、14、17:1~5、18:4)。これらの聖句は、イエスに従う者たちが公共の場でどのようにあかしをしたかということについて、何を教えていますか。これらの聖句を読みながら、彼らがどこで語り、だれに語り、何を言い、その結果がどうであったのかを考えてください。

使徒たちのあかしは、個人的であるとともに霊的なものでした。パウロは、イスラエルの歴史について詳しく述べました。まず、エジプトにおける「わたしたちの先祖」(使徒13:17)から始め、定住時代から士師たち、王たち、そしてダビデへと彼らの歴史をたどり、ダビデからイエスへと話をみごとに移しています。

パウロやほかの人たちも、聖書の文脈の中で彼らの個人的経験や理解がいかんにかんがっているかを示しました。彼らは情報を提供し、議論し、話し合っています。説教し、教え、話し合う中で、個人的あかしと聖書を結びつけることは、非常に説得力がありました。聖書のいくつかの箇所が示すように、宗教指導者の中には、使徒たちの権威と、その結果として生じる人々(ユダヤ人と異邦人の双方)に対する彼らの影響力を妬む人たちもいました。

セブンスデー・アドベンチスト教会も、説教と教えることの双方を通して、あかしと、聖書による説明をするように奨励してきた根強い歴史を持っています。安息日学校を聖なる礼拝(説教)や安息日のほかの集会(例えば、青年の集会)と結びつけることで、セブンスデー・アドベンチストの礼拝にきちんとした強固な教育的基盤が与えられます。それはほかの学習体験によって補われる必要がありますが、安息日の教育的体験には不可欠です。

参考資料として、『各時代の希望』第29章「安息日」を読んでください。

「ユダヤ人に与えられた制度の中で彼らを周囲の国民から区別するのに安息日ほど役立ったものはなかった。神は、安息日を守ることが神の礼拝者である証拠となるように計画された。それは、彼らが偶像礼拝から離れ、真の神とつながっていることの証拠となるのであった。しかし安息日を聖とするためには、人は自ら聖でなければならない。信仰によって彼らはキリストの義にあずかる者とならねばならない。『安息日を覚えて、これを聖とせよ』との命令がイスラエルに与えられた時、主はまた彼らに、『あなたがたは、わたしに対して聖なる民とならなければならない』と言われた（出エジプト20：8、22：31）。このようにしてのみ、安息日は、イスラエルを神の礼拝者として区別することができた。

.....

だから安息日は、われわれを聖としてくださるキリストの力のしるしである。……キリストのきよめの力のしるしとして、安息日は、キリストを通して神のイスラエルの一部となるすべての人に与えられているのである」（『希望への光』811、815 ページ、『各時代の希望』上巻364、373 ページ）。

話し合いのための質問

- ① セブンスデー・アドベンチストは、しばしば時間を割いて、安息日にするべきでないことを検討します。今週の研究で論じられた理想に安息日順守者の目を向け続けさせ、安息日を教育の機会として強調する一連の質問を深めてください。例えば、「神のご品性についてもっと知るために、私は安息日に何をしたらよいのだろうか」といった質問です。
- ② 上記のエレン・G・ホワイトの著書からの引用文について、考えてください。この引用文は、近隣社会の中で安息日順守者を区別するのは、ただ形式的に安息日を守ることではない、と暗に述べています。私たちは何によって、「キリストの義にあずかる者」のように、また「聖」とされた者ようになるのでしょうか。このことは、安息日とどのような関係がありますか。
- ③ どのようにすれば、あなたの安息日の経験をもっと豊かにすることができるのでしょうか。これからの1年間、安息日順守を通してあなたが学びたいことに焦点を合わせて、三つの目標を定めてください。